

## 令和4年度 第3回古賀市地域公共交通会議 会議録

○日時：令和5年2月20日（月）15時30分～17時15分

○場所：古賀市役所第2庁舎2階 中会議室

○委員の出席状況

出席者

【会長】九州産業大学	理工学部 教授	稲永 健太郎	
【副会長】公募市民		久池井 良人	
古賀市	総務部長	野村 哲也	
古賀市	建設課長	小瀧 正博	
西日本鉄道株式会社	営業第三担当 課長	久池井 隆	
株式会社古賀タクシー	代表取締役	後藤 正典	
花鶴タクシー有限会社	代表取締役	保井 享	
一般社団法人福岡市タクシー協会	専務理事	富原 毅	
一般社団法人福岡県バス協会	専務理事	中川原 達也	
公募市民		河村 正彦	
公募市民		安武 洋子	
九州運輸局福岡運輸支局	支局長	久世 和彦	(代理) オンライン
九州旅客鉄道株式会社	赤間駅 駅長	森武 晋一郎	
社会福祉法人古賀市社会福祉協議会	総務・地域課長	多田 祐二	
大分大学	経済学部 教授	大井 尚司	

欠席者

西日本鉄道労働組合	自動車対策部長	山本 義美
-----------	---------	-------

○事務局：古賀市経営戦略課 星野課長、吉野係長、丸井、横山

○傍聴者：1名

○配布資料

- 資料1：令和4年度公共交通事業者支援事業について
- 資料2：A I オンデマンドバスの運行状況
- 資料2 別添1：「のるーと古賀」ライトデータ分析レポート
- 資料3：公共交通地域協議会について
- 資料3 別添1：小竹区住民アンケート
- 資料3 別添2：筵内区住民アンケート
- 資料4：令和5年度公共交通事業者支援事業について
- 資料5：古賀市地域公共交通協議会について
- 資料5 別添1：古賀市地域公共交通会議要綱

○会議概要

1. 開会

経営戦略 課長	あいさつ
経営戦略 係長	あいさつ
委員	開会のあいさつ
事務局	委員の出席状況及び会議の成立について報告 資料の確認

2. 令和4年度公共交通事業者支援事業について

事務局	令和4年度公共交通事業者支援事業について説明（資料1）
委員	意見ではなくお礼になるが、地方創生臨時交付金を活用されての公共交通事業者とトラック運送事業者に対する手厚い支援をいただき、感謝申し上げます。コロナが落ち着いてきたとはいえ、未だ公共交通事業者とトラック運送事業者は厳しい状況が続いている。このあと令和5年度の支援事業についても報告をいただくようになっているが、引き続きのご支援をいただければと思う。
委員	タクシー協会からもお礼になる。特に古賀市におかれては、タクシー事業に手厚く支援をしていただいている。感謝申し上げます。コロナがあって利用者の方の生活スタイルも変わり、タクシーの在り方も考えていかないといけない。本協議会を通じて、皆様からどのようなタクシーがあったら良いかなどタクシー業者やタクシー協会へアドバイスをいただきたい。お願い申し上げます。
委員	先ほど専務理事の方からお話ししたが、業者を代表してお礼を伝えておかないといけないことに間違いはない。古賀市の方は他の地区とは違って1社あたり1台あたりの支援、燃料支援があり非常にタクシーは良いなと思っておられるとは思いますが、私共も実質は燃料等の高騰がかなりある。夜はタクシーがつかまりにくいというご指摘も何回もいただいている。体制づくりをしているわけだが、やはり第8波まで来る、そしてまた、医療機関ではそういったコロナの発生源の中を働いておられるので、若干居酒屋・スナック等の夜の稼働も少ない状況となっている。しかしながら、チケットなどクーポンはたくさんいただいているので、今後とも車がないなど、体制については早急に是正していきたいと思っているが、なかなか手が少ない状況のため、最大限に努力していきたい。ご迷惑をおかけすると思うが、よろしくようお願い申し上げます。
委員	先ほどから花鶴タクシーさんやタクシー協会の方からもお話しがあったとおりで、一時はどうなることかというぐらい利用者が激減した時期もあったが、なんとか持ちこたえることができ、今、まさにこれから、ご恩を返していかなければならないという風に思っている。今後とも皆様のご希望・ご要望等あれば、色々なかたちで私共も対応はしていきたいと思っている。よろしくようお願い申し上げます。感謝する。

委員	利用者負荷の目線で質問があり、市役所の方にもお尋ねしたい。 (2)と(3)についてはチケットの使用状況をパーセンテージで出していただいているが、利用率が多いのか少ないのかわからないため、どうなのか。
事務局	先ほどの説明にもあったように、2月末までが使用期限になっており、今月分最後のかけ込みでの使用状況をみて判断していきたいと思っているところである。いただいたご意見の中には喜びの声もあるが、飲食店の方としては夜の利用の時に車両がなかなか捕まらないといったご意見があった。妊産婦タクシーの方は、市外病院の受診など遠出をした際に、帰りが使用できないといったご意見をいただいている。 また、使用期限については今回、事業で2月末までの使用期限にさせていただいたけれども、こちらについては年末などにお渡しした方は使用期間が短くなっているため、この辺は課題としてあると理解している。
委員	確認だが、妊産婦タクシー利用促進事業について、使い方に制約があるように聞こえたが、具体的にはどのようなものか。市外には出られないということか。
事務局	こちらのタクシーのクーポン券は市内タクシー事業者さんと契約させていただいている。帰りの際に、例えば宗像市やそれよりも遠いところなどで降りられて、そこから古賀へ帰る際も利用されたい場合に、古賀市内の事業者は配車の範囲外となるため、その時にはそのタクシーを利用できず、クーポンを使用できないといった状況である。

### 3. A I オンデマンドバスの運行状況

事務局	A I オンデマンドバスの運行状況について説明（資料2）
委員	事務局にお尋ねするが、10月から11月までの2か月というところだが、いずれにしても恒常的に運行なされるということで、車が足りないぐらいの状況が理想的だろうとは思いますが、今後利用促進の何か図られるご予定などはあるか。 先ほど日吉地区などで出ていたが、やはりご存知ないのか、あっても利用されないのか、色々なかたちがあるとは思いますが、何かご予定があればお知らせいただきたい。
事務局	定期的に公民館等での説明会やサンリブで啓発などはしている。今後についても、今月は童謡まつりでの啓発、地域での啓発を行なっていく予定としている。 日吉地区については、元々エリアの端であり、古賀駅等まで近いため、説明会でも駅まで歩くから大丈夫というご意見が出ているところではある。工業団地へのご意見をいただいたのも実は日吉台での説明会の時であり、エリア外にも魅力的なミーティングポイントを増やしていく等のことは必要であると感じている。今後、啓発については利用促進を図る意味でかなり効果的かと思うので地域でもイベント等でも実施していく予定にしている。
委員	私も参加している那珂川市の協議会で出た意見であるが、那珂川市の方はデマンドバスや利用が少ないところにあえてエリアを作り、イベントを開催して利用してもらうのはどうかという意見があった。ここでは、例えば公園などがあ

	<p>るが、那珂川市にはダムがあり、夏は涼しくて子どもさんたちがそこに行かれる。しかし、公共交通機関がなく、西鉄バスも時間が空いていない時があるため、あえてそこで、まだ計画中ではあるが、皆さんでイベントをして利用してもらったらどうかという案も先日出ていた。急にイベントをうてるものではないが、利用のためにはそういった考え方もあるなと思い、ご参考に紹介させていただいた。</p>
<p>委員</p>	<p>現実的にまだ始まったばかりではある。</p> <p>今年の動きとしては、問題として、スマホでの予約はいつでも可能だが電話の受付時間には限りがあり、スマホを使えない方などは前日の予約、タクシーであれば今からすぐ呼んですぐ行こうというところではあるのだろう。予約通りに自分の生活サイクルを合わせられるかというところである。今年は特に寒い状況の中で、タクシーと違い、家の中で待って出てくるかたちではなく、寒い中ポイントにいなければならないということで、少ないなということはわかるけれども、若干春になればある程度の数字が出てこないといけない。やはりなんとか増やす方法を業者とも真剣に考えながら協力してやっていきたいと思っている。ただ、前から出ていたが、現実的にいうと花鶴丘がこういう状況ではあるが、この地域、日吉・花鶴丘等については、のるーと導入後ほとんどタクシーの利用がない。</p> <p>ざっくばらんに言うが、東医療センター、サンリブという話が出ているということだが、私はタクシーと兼務はしているけども、東医療センターは西鉄さんの路線も入っている、サンリブについてはタクシーのドル箱的なものがある、ある程度 JR の西口の分で、歩いてすぐであるからそこまで直接乗り込む必要がないのではないかという気持ちはしている。頭の隅の方においていただければ幸いである。</p>
<p>委員</p>	<p>私共の方でも、10月からつぶさに実績を把握させていただいている。今日、お示しいただいている、大体日当たり10名ということで非常に少ないと思っている。本格運用とされているが、例えばどういう風な検証をしてこの10名を15名にし、20名にし、といったことを今後こういう会議で検討していく機会があるか。エリアや接続拠点の問題が1番大きいのか、それとも居住者が少ないところに元々設定した等のエリアの問題、あとは認知度とそのもの、先ほども少しずつあげていかないといけないと言われていたが、それが本当に認知度が少ないからなのか、そういったところにエリアの問題との関連性があるのか、もう少し踏み込んだ検証をしていかないとなかなか厳しい数字である。</p> <p>例えば目標が100名に設定した場合、90名だったらなんとなくイメージが湧き頑張る努力にもなるが、自分たちも私もかなり少ない印象を感じている。そのあたりは少し検証をした方が、今、保井社長がおっしゃったようにバスとタクシーの稼ぎ頭のところには手を付けるべきかという議論があるが、利用者の方はここではなく病院のほうが良いんだという声があるかもしれない。利用者の意向を踏まえて、腹を割って話す検証の仕方をしていかないと少し厳しい数字</p>

	だと感じている。
委員	<p>私も AI オンデマンドバスの利用状況は実際どうなのか、非常に気になっていました。私は地区外に住んでいるため、花鶴丘や日吉地区では認知度があると思うが、それ以外のところは古賀市に AI オンデマンドバスが導入されたということはわかるが、存在を何も感じない。例えば、駅に行く、市役所に行く、市役所に行った際に AI オンデマンドバスが導入されたことをアピールするものがない。本当に地味に走っている感じである。これでは利用者は伸びないのではないかと心配している。</p> <p>特に一旦乗ったら、割と早く来ることがわかり、利便性はあると感じる。ところが、なかなか使いづらいところがある。電話でもすれば良いのではないかと、アプリでも慣れたら簡単とはいえ、最初の抵抗感はかなりある。やはり、面倒だということがある。予約をすれば、その時間にきちんと乗らないといけない。例えば時刻表であれば、今度はだめだから次のに乗ろうとできるが、こういうのは予約を変更しないとけない。なかなか面倒だということもあり、ブレーキになっているところがある。</p> <p>2つめは、利用者の声が、どうしても普段乗っている方の声、積極的な方の声が来る。私は積極的な方の声というのはある程度はわかるが、1番大事なのは積極的に乗らない方、アクセスしない方がどう思っているのかをしっかりと把握しておかないと、常連の方だけが非常に使うようなそういう交通機関になりはしないかと感じている。実は私、今日も試しにのるーとに乗ってみたが、運転手さんに聞いたところ、やはり常連の方が多いと話をされていた。乗り慣れたら非常に便利とのことで、それはわかる。しかし、常連で乗り慣れた方というのはある一定以上増えないと思う。アピールしていくと同時に、その地区の中だけの運行がすべてみたいなかたちでは広がりが無い。そうやってポイントを増やすと色々と差し障りがあるとわかるが、例えば、宗像市は東郷駅から乗っても地区内である。そして、ユリックスが地区外にあるが、ここは繋いでいくことができる。</p> <p>ししぶ駅などは交通の中心になるべきところではないかと思っていたが、地区外であった。ししぶ駅が地区外というのは、非常に違和感がある。実際に利用のランキングをみると、ししぶ駅の利用が非常に少ない。これであれば本当に機能するかたちの運行になれているのかと心配を持ちながらではあるが、広げていただきたい。市民の方は新聞などで知っていると思うが、宇美町が2月から全町内を200円でAI オンデマンドバスの運行をしている。これは、非常に魅力的ではないかと思う。古賀でするにはなかなかハードルがあると思うが、色々な利用を参考にされて、考えを示していただけたらと思う。</p>
委員	<p>先ほど委員長も言われていたが、日の里の方は西鉄バスの路線廃止に伴うのるーとの運行であるため、そういわれると箇所的なところであり、そこは1日200円で運行している。西鉄バス宗像さんと新星交通のタクシーさんとあるが、若干運行に負担があるような、2台では足りないような状況の中である程度し</p>

	<p>ている。路線の回避に伴う運行のため、あくまでも少し違う。その点等あるが、最終的にはこの暖かい時期を乗り越えてみて、どうしても増えないという状況であれば、ある程度タクシーや西鉄バスさん含めて、少しでも拡張できるところは拡張していかなければいけないところまでくるのではないかと考えている。個人的な意見である。</p>
委員	<p>実は私、宇美町の協議会にも入っており、宇美町も町内を循環する無料の福祉バスを走らせていた。これがかなり本数が少ないのと利便性が悪いということでそれを全部廃止して、置き換えるということであるため、古賀の入り方とは少し違うということをご理解いただきたい。同じことをやると路線バスすべてやめないといけないことになる。そこだけは少しご理解いただければと思う。</p>
委員	<p>花鶴丘に住んでいる市民として、いつも感じている。花鶴丘の場合、特に3丁目になるが、公民館の敷地を中心に住民たちがマイクロバスを運行し、1番必要な公民館からサンリブまでの路線を週に2回設けている。その運転を誰がするかというと地域住民が順番でサポート、もちろん保険もかけて安全のことにも十分に注意してやっている。サンリブに着いてから終わるまで1時間半、お年寄りでもゆっくり買い物ができる時間を取っており、着実に運行されている。この委員会に長いこと参加して、議論を聴いてきたが、我々が本当に必要なものであれば、もっと、ほっといても増えるはず。これが増えないということは、どこか望んでいるものとは違ったものを提供されている。行き違いがあるような感じがしてならない。</p> <p>本当に必要な、サンリブへの週2回のマイクロバスを用意しての福祉プログラム、これは堅実に着実に動いているわけである。そういうものを考えると、もう少しなんとかできないか。現状を色々伺ったが、なんとか地域のためにとということで、市側が色々ご苦労なさっていてこれだけやってきたと思う。しかし、これだけ何年間かけて準備をしてきたものの結果として、十分我々が認知をして、今度はシステムができたから非常に助かるというような声を私の情報の不足かもしれないが、地域ではまだあまり聞いていない。本当に必要なものとのすり合わせのようなことをしていただきたいと思う。使われる方は良い意見が出ており、使われる方の意見は反映される。しかし、使わない人がなぜ使わないのかどうして使いにくいのかという意見を聞かないと、根本的なプラスの面での政策の転換には結びつかない。その辺を何とかできないか。</p>
事務局	<p>まず、まだ数か月しか経っていないため、この時点での判断はなかなか難しい。後ほど出てくる地域ごとのアンケートの中で、やはり地元にあった公共交通を、今後は地域ごとにカラーが出てくる時代ではないかと思っている。そういうことを来年度の計画の中で見つけ、今のAIオンデマンドバスが古賀に導入されたときにどうなったのかを今検証している。地元の方も実際、焦っていらっしゃる。このままでは別の地域に持っていかれると、実際に乗られている方が思っているのも事実。そういう方々が会員さんを増やしていただいているため、もう少し状態を見ていきたいと思っている。</p>

委員	<p>先ほど河村委員がおっしゃったのも、私も本当にそうだろうと思う。その前に久池井委員からお話があった、場合によってはバスの事業、当然今日はタクシー事業者さん2社いるが、タクシー事業と重なる部分が出てくると思うが、利用者の方が住民の方がどういう風に望まれるのかなというのが1番だろうということをおこの協議会で話をしている。他の地区の紹介ではないが、他の地区は色々なお店や整骨院、そういったところにポイントを設けて、場合によってはスポンサーになっていただく方を探して、市の財政、行政の負担を軽減させようと考えられているところもある。私がもし利用者であれば、駅だけではなく、病院なども望むのかなと思う。行政側として、お出かけができない方のためのものなのか、買い物を含めたところで古賀市を盛り上げようというところですかということになると、私も事業者団体として久池井委員がおっしゃったことは非常に重たいなど、今後やはりここで発言するということはタクシー事業者さんを何か最終的な決断をしなければならないのだろうが、この公共交通会議では古賀市を盛り上げるということになるため、それにはあまり急いではいけないのだろうが、本当の住民の方が何を望んでおられるのかを探って、進めていければ、せっかく作られたスタートしたものが活かされるのではないかと。</p>
委員	<p>登録者数は当然増えてきている、しかし利用者数が減ってきているというのは大変由々しき問題だと思う。登録者数は減ることはなく、だんだん増えていくことはわかる。しかし、登録者数が増えているということはそれだけ広まっていっているということであり、広がっている中で利用者が減っているという問題は考えないといけない問題である。こういう問題はよく、今報道でも全国各地の内容が紹介されている。なかなか難しいとは思いますが、ひと月いくらと定額制を導入しているところもあった。定額制では、色々な額の設定ができるようになっている。私が聞いたのは3,000円だった。500円というのもあり、採算的にはどうなのかと思ったが、例えば3,000円など定額制になった場合、ひと月に何回か乗るという方であれば、それならもう少し乗ってみよう、気軽に利用してみようと思うことに繋がると思う。これだけのるーとの車両を配置されて、人員も配置されているわけであり、その方々や車両は運用されない状態であるということから考えるとある程度運用実績を作った方が広がりがあるかなと思う。ただ、定額制になると様々な問題があるということは、私も承知しているが、可能性として色々なかたちを探っていかないと、この事業は鳴り物入りで始まったものだが、最終的にはうまく広がらないまま終わるのではないかと非常に危惧している。</p>
委員	<p>委員からのご発言のところ、少し注目しているところがあるのだが、自主運行のお話をされていた。住民の方がご自分たちで運行してサンリブまで行かれる、そして、ゆっくり買い物して帰ってこられる、そこに関しては市の方でも考えられているとは思いますが、免許の返納というところの大きい話で、それに伴って事故は起きないため現状はよろしいのだろうが、今後、私も含めて65歳に</p>

	<p>なって70歳になってくると、運転したくてもできなくなったり、色々な状況が起きたりする。安心して、免許を返納しても古賀市にはこのようなものがあるなというかたちが残ると、皆さん躊躇なくというか、ある意味思い切って免許の返納もできる。安全に留意しながら自主運行されている方も安堵して、今度は利用する側になってゆっくりお買い物ができるというところもあるため、その点も考えつつ、そこには財政的な負担や支援が必要にはなるとは思うが、考えてみてはどうか。どこの地区でも同じような内容になると思うが。</p>
委員	<p>地域住民にとって、サンリブで買い物をして新鮮な食料を手に入れるということは、ものすごく重要なことである。高齢者など、その要求にはシンプルなかたちで、着実にものすごく的確にシステムが応じているか、3丁目のところは。それ以外の全体の公共交通を今会議で色々、市の方で考えられていること、それを考えるにしても本当に必要なものであればすごく助かる。シンプルにみんながそれを支えて使っていることの大切さを申し上げたい。</p>
委員	<p>その自主運行については、市役所が補助金を出しているだろう。昔、宗像市でも車両を市が購入し、ドライバーさんを地元から出してもらってやっていた。考えれば、できるだけ停まるポイントは別にして、ある程度、市全体で考えれば、花鶴丘・日吉地区は良いなど、他の地区からすればうらやましいところがあるかもしれない。それで全部してくださいと言われるかもしれないが、ただそれがすぐできるものではない。利害関係の方もおられるため、慎重にしなければいけない。おでかけタクシーなどあるが、ない地区をそのおでかけタクシーで、花鶴丘もできれば自主運行をやめていただいでる一とに変わるという方向性をもっていかないといけないのではないかと、と個人的な気持ちはある。</p>
事務局	<p>河村委員にご紹介いただいた、花鶴丘3丁目のお出かけサポートについては、市の方はサポートさせていただいているが、地域の皆様に自由にお使いいただいている事業になる。こちらのAIオンデマンドバスについては、様々な可能性があるということで、本市も導入しているが、副会長からもご指摘があったとおり、圧倒的にアピールが足りていない、認知されていないことは、私共も承知している。先に説明があったように、地域の方に出向いて説明をしていくことやユースケース、便利な利用の仕方について啓発の方を進めていきたいと考えている。3か月経過はしているけれども需要の掘り起こしに注力していきたいと考えている。よろしくようお願い申し上げます。</p>
委員	<p>様々なご意見を感謝申し上げます。まさにこういうものを話し合う貴重な場がこの会議ということであり、ここで少し話し合っただけですぐ決めるというわけにはいかないところではあるが、色々な立場の方からのご意見が出たため、今後市の方で既存の今補助等されているような、色々な手段、今回入っているのる一と、また、それ以外のバス・タクシーも含めて、ひとまず、のる一とのエリアの中をどうするのかについて早急に考えていかないといけないところである。ここから先、他のエリアをどうするのか将来的に議論が進んでいくのではないかと思う。まずこのエリアで意見をまとめていただき、どういう解決策があるのかと</p>



	<p>いったところやこういったやり方があるのではないかといったところをいくつか出していただき、それぞれの立場からご意見をいただいて、良い方向に持っていければと思っている。</p>
--	---

#### 4. 公共交通地域協議会について

事務局	公共交通地域協議会について説明（資料3）
委員	<p>確認なのだが、筵内の分は開催日時などが回覧板で回ったと思う。しかし、私は開催自体を知らなかった。市が悪いということではなく、要するに回覧板はいろいろなところから回り、資料が増えていき、見ていない場合がある。また、今筵内は必死になっているのにアンケートの回答者が少ない。480も配っているのに62なのかと、私はがっかりしている。もう少し広報がどうにかならないのかというのがある。</p> <p>危機感の共有ができていない。私からすれば、先ほどの上空マップを見ても私たちには関係ないところだという感覚が大きいと思う。これを使ったらこう便利であるという広報活動をどんなにしても、どこまで浸透させられるかがものすごく大事なのではないかと。23日は何時から行われたのか。</p>
事務局	10時から行われている。
委員	<p>アンケートの取り方だが、博多にも行けるイオンモールにも行ける、アンケートの中で色々な夢を語るのは良いが、ある程度、古賀の人口の中での、古賀の移動の中でというのを私は考えている。この中で、新宮中央駅、博多駅、福岡駅、福工大前駅、西鉄新宮駅に行きたい、イオンモール福津、マクドナルド新宮店、新宮町内、ガストなど、アンケートを取られるのは良いが、あまり夢ばかり語っていると地区的な問題も当然ある。若宮の方からもシャトルバスが走ってきており、福岡の駅には一応入っているが、それでもかなり地元のタクシー業者の了解を取った上で、福岡駅の東口に若宮の公共関係のシャトルバスが夕方の18時半ぐらいに入ってきている。アンケートの取り方があまりにも、古賀で限定したかたちでないと、いけない方向に走っているのではないかとそういう気がする。</p>
事務局	<p>その部分に関してはこの結果を見ると、福津イオンに行きたい、新宮中央駅に行きたいということは、古賀だけで頑張ってもその方のニーズは解決しないという結論に至っている。しかし、時代的には両隣の町とも広域連携の策の検討も入ってくるのではないかと。筵内に関しては、結構農家の方が多いため、二世帯住宅が多く、息子に連れて行ってもらうから乗らないという意見も出ていた。</p>
委員	<p>結果を見ていると、これまで交通会議で議論していたことがどこにいったのかという疑問がある。このままこれでやるというのと、今までやろうとしていたこと、バスの再編などもこれまで議論していたはずだったのに、全部白紙撤回されて、すごいものを入れないとニーズを満たせないという風に持っていかれないかがすごく心配。</p> <p>調査結果の読み方として気になっているところが、夜遅い時間帯が欲しいとい</p>

	<p>う人が一体どこに行きたいのか、何歳ぐらいの人がそれを答えているのかがここを見てもわからない。高齢の方が答えているものが多いとなっているが、高齢の方が夜にどこに行かれないのかと言いたい。高位に上がっている人がもしかしたら高齢じゃないのかもしれない。回答者数のシェアとしては高齢者が多いけども、その中に若い人が点在しているということであれば、話が変わってくる。比率の大きいところだけを取り出して、ご説明されているが結果の解釈を間違えているのではないかという見方をしてしまう。本当の高頻度の人は何歳の人がどれだけいて、という話をして、ではその人たちがよくどこに行っているかを見て、見極めていかないと、朝から晩まで走らせてこの高頻度の人が高齢者も若い人もみんな含めて乗るという解釈にはならないと思う。そういう運行の仕方をしてしまった場合、かえってお客さんが乗らない空っぽの状態がどんどんできる気がして、そこに気を付けた方がよい。</p> <p>運行時間帯の資料をどちらも5ページのスライドにあるが、どうもこの解釈と説明は間違っているのではないか。確かに比率で見ると、1番飛んでいるところが例えば筵内だと20時台のところ、たまたま20%ぐらいいると、しかし20人しか答えていないので4人である。小竹の方も1番大きいところというのがこれを計算すると大体12人くらいである。そこから後ろの人数をざっと計算しても20人ちょっとである、小竹の場合。むしろそこから前の方が累計すると人数が多い。そこから前で終わっても良いという人の方が、実は圧倒的に多数である。1番高いところだけ見て、そこが多いとみるのは間違いではないか。この時間ぐらいやればある程度、8割ぐらい満たせるという見方をするのであれば私のような見方をしないといけない。累計してみても1番多いところに合わせれば良いという話にはきつとまらない。できる範囲があるため、そこを間違えないようにしたほうが良いのではないか。少なくとも小竹はみている限りだと19時台より前であれば、過半数の需要を満たせている、全部を積み上げていったらわかると思うが。ということは、今のバスの時間帯とそんなに変わらない、一部の飛んだ需要が容易にシフトしている。小竹の方は、たまたま回答したところが少し多かったということ。筵内の方は、みていると19時より前で大体終わっている、19時より後ろの人は7人しかいない、20人中7人しかいない。過半数は終わっているということになるため、解釈を間違えないようにしないと、最多のところをとってそこが良いとするのは、やはり少し違うと思うが、いかがか。</p>
事務局	<p>今後、地域に入りながら、結果を踏まえて協議を行っていく。まだ整理できていないのだが、市民意識調査とあって、1月末で市内全域3,000名の方にデータを取っている。この中で古賀市の不満の1位は駅前だったが、3位に公共交通が入ってきており、その方のデータをまだ抽出できていないが、その地域の方がどのような不満を述べられているかというデータも合わせたところで、また改めて皆さんに、検証していただきたい部分はある。よろしくようお願い申し上げます。</p>

委員	今回、小竹と筵内のデータを渡していただいているが、別の地域・地区のお話というのは、今後、開催される予定はあるのか。
事務局	今回は、まず小竹区がのり一との区域と重複しているということ、筵内区に関しては、元々西鉄バスの頻度が少ないというところで、まずは公共交通についてご意見を伺った方が良いということの2地区について、アンケート調査を実施している。また、来年度についてはその他地域についても、計画の策定の予定もあるため、その関係で実施していく方向で考えている。
委員	きっと定期的かというと断続的かというと、色々とはやはり状況は変わっていくと思う。データ取りは大変だということを知っているが、これからも頑張っていたきたい。住民の皆さんの声を拾っていくという地道な作業ではあるが、重要な作業だと考えている。ぜひ、引き続き頑張っていたきたい。

#### 5. 令和5年度公共交通事業者支援事業について

事務局	令和5年度公共交通事業者支援事業について説明（資料4）
委員	こちらもお礼になるのだが、先ほど事務局からお話があったように3月の議会での議決を経ての予算化ということで、まだお礼は早いと思うが、具体的にUDの車両について、自治体、市町村でいただいたのが、福岡市さんは現在20万円、その他は古賀市が初めてになる。これを利用して普及されて利用者がどんどん広がっていくことを望む。事業者さん2社に乗り降りの訓練等しっかりしていただいて、車いすでの利用の時にも支障がないようお願いをしていたきたい。引き続きよろしくようお願い申し上げる。
委員	車両が入ってこない場合、予算的には来年になっても良いのか。入ってくるまでに、1年はかかる。
事務局	その場合は、繰り越しにさせていただく。

#### 6. 古賀市地域公共交通協議会について

事務局	古賀市地域公共交通協議会について（資料5）
-----	-----------------------

<p>委員 (富原委員)</p>	<p>先ほどの中で、デマンドの今ののるーと実施のところ、1年と数か月前に発言していることを思い起こしながら古賀市の交通計画の総括をもう1回しっかりした上で、のるーとを進めるべきだと思っている。当初、オンデマンドバスについては、若干早すぎるのではないかという話を1番最初にしたと思うが、このオンデマンドバスが走っているとこれを利用することばかりに、先ほどの発言にもあったように、なってしまいがちになる。</p> <p>実際、タクシー事業はどのような問題を抱えているのか、バスの方はどうなのかというのを再認識していただいて、必要があればそういったところにも見直しをした上でこのオンデマンドを進んでいって行くのか、地域を広げて行くのかといったところも言った方が良いのではないと思う。ここにも住民の代表の方もいらっしゃるため、より良いところに持っていければと思う。事務局については、なかなか色々ところで交通整理が大変だとは思いますが、そこをお願いしたい。よろしくお願い申し上げます。</p>
<p>委員 (大井委員)</p>	<p>実務的な話になるが、補助金をもらう時にバスの運行補助金をもらう際に計画を作っていないといけないということと受け皿としての協議会という組織が必要になる。新しくこういった協議会を持っていないと前の交通会議の仕組みでは受け手になれないため、実務面としてはそういった面がある。ただ、協議会をする際に構成メンバーを増やさないといけない。例えば道路管理者、福祉輸送などを行なっている団体、地域であれば労働者の代表、バス労働者の代表等が必要になるため、支局さんと確認を十分とってもらいたい。構成員が抜けていると議論できない。補足があれば言っていただきたい。</p>
<p>委員 (久保田委員代理 西脇様)</p>	<p>私の方から補足させていただく。国庫補助金を活用される場合には、この計画を作って、その補助対象系統をこの計画の中に位置づける必要がある。今、古賀市さんにおかれては、幹線補助とフィーダー補助も国庫補助金を活用されていないが、今後、国庫補助金を活用される際には、この計画を必ず作るということが必要になってくるため、よろしくお願い申し上げます。今、お話にあった委員の内容、委員については事務局の方と調整させていただきたい。よろしくお願い申し上げます。</p>
<p>会長</p>	<p>しっかり考えておかないと、お金をあげないよということ。特に、当事者にあたる方がこれからもう少し、プラスαということになるため、皆様が中核と、全員中核であるが、引き続き会議の方にご参加いただいて、またご協力をいただきたいところである。</p>

## 7. その他

<p>事務局</p>	<p>補助対象等々の事務手続きとして、口座を開設したり、財務規定を作ったりする必要があるため、そちらがおそらく5月ごろまでに定める必要がある。その頃に皆様にご参集いただくかどうかにはなるが、財務規定等々についてはその頃に説明をさせていただく機会があるかと考えている。</p>
------------	---

以上